

生徒の意欲を高めるICTを利用した中学校音楽科創作指導の在り方

茨城県つくば市立竹園東中学校

こまやよい
小山弥生

【実践の内容】

音楽の創作分野では、活動中も作品発表にも演奏技能が影響する為、演奏が苦手な生徒は「難しい」ととらえ、創作に意欲的に取り組むことができなかった。そこで、ICTを活用し、生徒ひとりひとりが意欲を持って創作活動ができるような指導の工夫を行った。生徒の興味関心の高いICTを利用し個々の能力にあわせた創作活動ができたことで、生徒全員が作曲作品を創作することができ、充実感、達成感を持たせることができた。難しいと思っていた「創作」ができたことで、生徒の中にもっと工夫して創作したい、作品を鑑賞したい、作品を演奏したいという思いが生まれた。

【論文内容の紹介】

1 環境の整備

予算の関係もあり、フリー作曲ソフトを探した。五線紙上で譜面を作成、編集し、MIDIファイルを作成できる「Muse」と、「Muse Visual Editor」を選びインストールした。

2 指導の実際

(1) オリエンテーション

(2) 創作の計画作り

- ア イメージをはっきりさせるために、画像から受けるイメージを言葉で表現する
- イ 創作方法の提示（4通り）

(3) 創作活動

作曲ソフトを活用し、繰り返し試聴しながらすぐに作り替えることができる利点を生かし、自分のイメージする音を探る。

(4) 中間発表会

データベース上の先輩の作品を聴く。創作途中の作品を鑑賞し、お互いにアドバイスを送り合ったり、感想を述べ合う。

(5) 作品の再考と発表準備

中間発表会で感じたこと、友達からのアドバイスを参考に作品を再考する。作品をMIDIファイルに変換し、画像と作品の解説の3点をスタディノートに1つにまとめる。

(6) 鑑賞会

全ての作品をデータベース化し、個人で多くの作品を鑑賞する。鑑賞した作品には、データベース子情報機能を使って、感想とアドバイスを送った。

3 研究の総括

作曲ソフトを利用したことで、演奏技能に影響されずに音色、リズムに工夫を凝らすことができた。作品の鑑賞で、「スタディノート」を使用し、楽器準備をして発表するよりも時間をかけずに、デジタル化、データベース化された作品をいつでも何度でも聴くことができた。クラス学年の枠を超えて多くの曲を鑑賞することで、多様な音楽表現に気づくことができ、情景画を見てイメージをとらえ、創作者の意図を理解しながら聴くことで、鑑賞を楽しむことができた。

4 研究の成果

この授業をきっかけに、もっと作曲をやりたいという生徒が増え、選択音楽でも取り組んだ。その作品をデータベース化しておいたところ、「卒業」をテーマにした生徒の作品が高い評価を得て、多くの生徒が休み時間等に作品を鑑賞し、卒業式にこの曲を歌いたいという声が高まった。何人かの生徒の手も加わって歌える作品へと仕上がり、実際に卒業式に全校生徒で合唱するまでとなった。生徒達は、自分の仲間が創った曲を合唱することに対して高い意欲を持ち、一生懸命に合唱練習に取り組んだ。後輩も、先輩を尊敬し、自分達の卒業式の時も、オリジナルの全体合唱曲を歌いたいという声も聞こえた。